

進歩work

2009年10月1日

No.
34

題字は熊楠

■発行／南方熊楠顕彰会 〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
<http://www.minakata.org/> <E-mail> minakata@mb.aikis.or.jp

自筆資料に見る南方熊楠 5

輪廻思想と粘菌図

文／萩原博光（国立科学博物館名誉研究員）



在米時代の羽山蕃次郎宛書簡に描かれた図
 (平凡社版『全集』より)

ここで紹介する図は、南方熊楠が在米時代に親友羽山繁太郎の弟蕃次郎へ送った手紙に描かれた粘菌(変形菌)の絵です。日本での収集を依頼するにあたり、粘菌がどのような生き物かを説明するために書いた絵で、手紙の一部を引用すると「(1)のごとく幼時は水中を動きまわり、トンボがえりなどし、追い追いは相集まりて(2)のごとく痰のようなものとなり、アミーバのごとくうごきありき、物にあえただちにこれを食らう。然るのち、それぞれ好き好きにかたまり、(3)より(7)に至るごとくいろいろの菌状のものとなり、いすれもたたくときは煙を生ず。」とあります(平凡社版『南方熊楠全集』第7巻：97頁、1971年)。

南方の著作には彼の思想のキー・ワードのごとくに「粘菌」が登場するため、多くの読者は見たこともないこの生き物を想像して彼の思想を探ろうとします。粘菌は、腐りつつある落葉や倒木の上で細菌(バクテリア)などの微生物を捕食して生活しており、森林ばかりでなく身近な神社や公園でもごく普通に見られるありふれた生き物です。少し前までは、植物と動物の両方の性質を持つ中間的な生き物と考えられ、粘菌学者以外の生物学者にとってすら理解を超えた不思議な生き物でした。しかし、今では誰でも市販の図鑑やインターネットから容易にこの生き物に関する知識を得ることができるようになりました。ところが、これらの情報を得ても読者にとってまだ大きな疑問が1つ残るかもしれません。その疑問こそ、密教の輪廻思想をわかりやすく説明するために南方が目をつけた点です。

生命が親から子へ引き継がれていくことは疑う余地のないことです。また、あまりにも常識的なため、親が死ぬまで親と子が共存していることを疑う人はいないでしょう。動物でも植物でも同じことです。では、親が死んだ時、親の生命はどうなるのでしょうか。消滅する考える人も、生まれ変わると考える人もいます。南方にとって、生死の現象や靈魂の死・不死の問題は避けて通ることのできなかったテーマでした。このテーマと粘菌はどのようにつながるのでしょうか。

粘菌では、図の(2)の痰のようなものが親に相当し、「変形体」と呼ばれています。図の(3)から(7)の菌状のものが子に相当し、「子実体」と呼ばれています。成熟した変形体は、その体のすべてが子実体に変身します。そのため、変形体と子実体の共存、すなわち親と子の共存はありませんし、変形体の死、すなわち親の死もあり得ません。このようにして子実体を作る性質は、菌学の用語で「全実性」と呼ばれています。
 私たちの目にするとほとんどすべての生き物は、「分実性」を示し、親の生命の一部が子に引き継がれるため、親と子が共存することになります。したがって、全実性を示す粘菌は、読者にとってはまったく理解しがたい存在なのです。南方は自分にとってなじみ深い粘菌を使ってわかりやすく説明したつもりですが、読者には彼の思想が二重の神秘のベールに包まれてしまったことになったと私には思われます。

CONTENTS

第19回南方熊楠賞 授賞式	… 2
第19回南方熊楠賞 受賞記念講演	… 3
サントリー地域文化賞 受賞	… 11
講演会「熊楠をもっと知ろう!」	… 12
第5回講演会 奥山直司	
ロンドン滞在記 第一回 松居竜五	… 20
南方熊楠と牧野富太郎(前篇) 田村義也	… 22
南方熊楠の湯⑨ 安田忠典	… 24
「熊楠」生物覚え書⑨ 土永知子	… 27
熊楠の新資料紹介 平川恵実子	… 28
熊楠ゆかりの地を訪ねる 中瀬喜陽	… 30
追悼カーメン・フラッカー先生 松居竜五	… 31
書簡の杜(1) 岸本昌也	… 32
南方熊楠研究奨励事業 平成21年度決定!	… 34
第7回南方熊楠セミナー ごあんない	… 35